

## 第5章 地域別将来像

### 5-1 地域別将来像の基本的な考え方

#### (1) 地域別将来像の目的

地域別将来像は、茨城町全体の将来都市像との整合を図りつつ、住民にとってより身近な地域を単位として、将来像を定めるものです。

#### (2) 地域別将来像の設定

地域別将来像では、地域ごとの現状や課題などの特徴をふまえ、これに応じて地域が担う役割を明確化します。また、分野別方針で定めた分野ごとの方針内容と整合を図り、地域別将来像の実現に向けた特に重要な方針を「地域づくりの方針」として定めます。

#### (3) 地域区分の設定

地域別将来像における地域区分については、住民の日常生活などの地域活動や、行政の集計単位などの地域的なまとまりを勘案し、以下の5地域に区分することとします。

なお、この地域区分は、旧計画の地域区分と整合を図っています。

#### ■ 地域区分図



■地域の概況

地域名	長岡地域	川根地域	上野合地域	沼前地域	石崎地域
構成地区	長岡, 谷田部 小鶴, 前田 大戸, 馬渡 近藤, 常井 桜の郷	木部, 飯沼 上飯沼, 下飯沼 下土師, 奥谷 越安, 蕎麦原 駒渡, 野曾 南栗崎, 南川又 中央工業団地	秋葉, 小幡 南島田, 神谷 鳥羽田, 生井沢 下雨ヶ谷 上雨ヶ谷, 下座	小堤, 駒場 神宿, 海老沢 城之内, 宮ヶ崎 網掛 酒沼の一部	上石崎, 中石崎 下石崎, 若宮 酒沼の一部
人口 世帯数 <sup>※1</sup>	14,320人 5,566世帯	4,799人 1,691世帯	4,500人 1,668世帯	5,329人 1,912世帯	4,661人 1,714世帯
面積 <sup>※2</sup>	約2,100ha	約2,143ha	約2,816ha	約2,303ha	約2,796ha
人口 密度	約6.8人/ha	約2.2人/ha	約1.6人/ha	約2.3人/ha	約1.7人/ha
概要	北関東自動車道茨城町東IC, 前田・長岡地区, 桜の郷地区, 小鶴地区, 大戸地区などの既存集落などを含む地域	北関東自動車道茨城町西IC, 茨城中央工業団地, 茨城工業団地, 奥谷地区, 茨城町運動公園, 木部地区や飯沼地区などの既存集落などを含む地域	北関東自動車道茨城空港北IC, 秋葉地区や小幡地区などの既存集落, 小幡北山埴輪製作遺跡公園などを含む地域	役場周辺, 駒場地区, 海老沢地区などの既存集落, 網掛公園などを含む地域	酒沼, 酒沼自然公園, 下石崎地区や中石崎地区などの既存集落などを含む地域

※1 平成27年4月時点 資料：茨城県の人口(町丁字別)

※2 図上計測による実測値

## 5-2 長岡地域の将来像

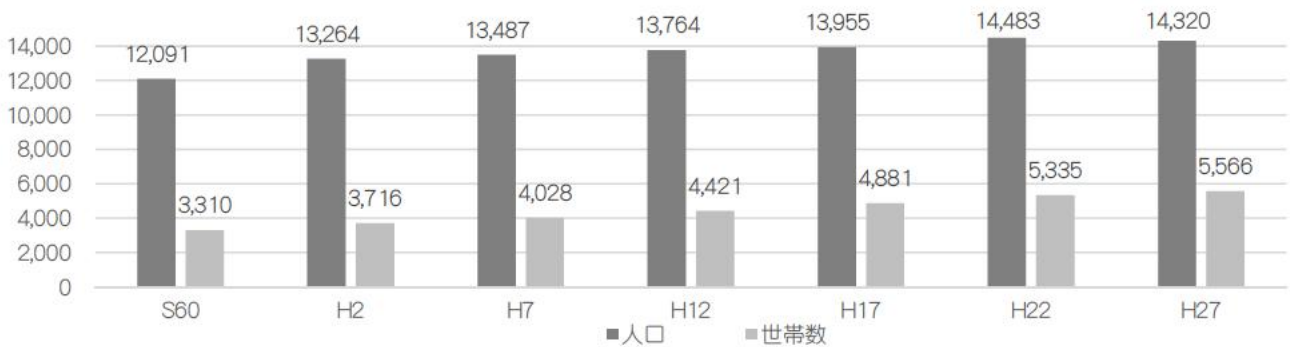
### (1) 地域の状況や課題

- ・本地域は、町全体の中で人口・世帯数が最も多い地域であり、人口は町の約43%を占めています。
- ・人口の推移については、平成22年まで増加傾向で推移していますが、以降減少傾向に転じています。
- ・土地利用の状況では、自然的土地利用\*が地域の約66%、都市的土地利用\*が約34%を占めており、他の地域と比較して都市的土地利用\*の割合が最も高い地域となっています。
- ・水戸市に隣接した地域であるとともに、北関東自動車道や国道6号などの広域幹線道路が通過するなど、優位な位置特性や交通利便性から、住宅や商業・サービス施設などが多く集積しています。
- ・恵まれた位置特性や交通利便性から、今後とも本町の中で特に市街化の影響を受けやすい地域であるため、適切な土地利用コントロールを行うことが重要です。
- ・前田・長岡地区では、決定されている地区計画\*に基づいた市街地整備を進めることにより、引き続き都市機能\*の集積を図ることが期待されます。
- ・桜の郷地区では、拠点地区にふさわしい整備や宅地分譲が進められており、医療施設や介護施設のほか、近年では商業施設が立地するなど、まちの拠点として、様々な都市機能\*が集積しつつあります。



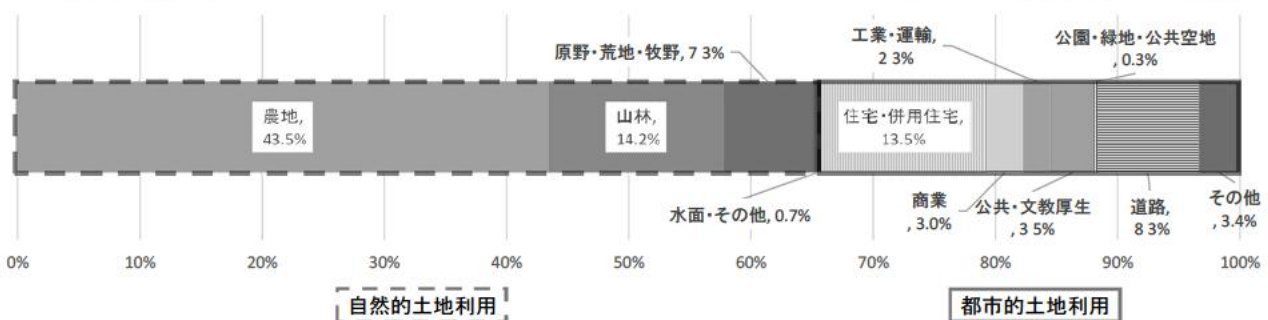
#### ■人口・世帯数の推移

資料：茨城県の人口(町丁字別)



#### ■土地利用の状況

資料：都市計画基礎調査\* (H27)



## (2) 地域の将来像

恵まれた位置・交通特性を活かした地域づくりにより  
町の都市的発展を牽引する地域

長岡地域は、位置特性や交通利便性などの恵まれた環境を活かし、本町の中心的な地域として、住む人や訪れる人にとって魅力ある地域づくりを目指します。

また、国道6号沿道部や桜の郷地区などの更なる拠点整備を推進し、商業施設、業務施設、医療・福祉施設などの立地・集積を促進することで、賑わいやふれあい、安心などの面で町民生活を支えることを目指します。

## (3) 地域づくりの方針

### ● 魅力ある市街地環境整備を推進します。

- ・前田・長岡地区は、計画的で秩序ある土地利用を進めるため、地区計画\*が決定された区域を中心に、必要な都市基盤施設\*の整備を推進します。
- ・桜の郷地区については、住宅や医療・福祉施設などが集積した良好な都市環境を保全するとともに、東側地区における土地利用を促進します。
- ・国道6号などの幹線道路の沿道部については、商業・業務施設などによる賑わいのある沿道土地利用の誘導を図るとともに、小鶴地区の主要地方道大洗友部線などの沿道部については、歩行者のための安全で快適な歩行空間の確保に努め、隣接する奥谷地区や小堤地区と一体的な生活拠点の形成を推進します。
- ・前田・長岡地区や桜の郷地区などの市街地においては、今後の社会情勢や市街化の状況などの変化に適切に対応するため、必要に応じて現在の都市計画の見直しについて検討します。
- ・前田団地などの市街地内において、近年増加する空き家の解消に向けた対策を推進します。

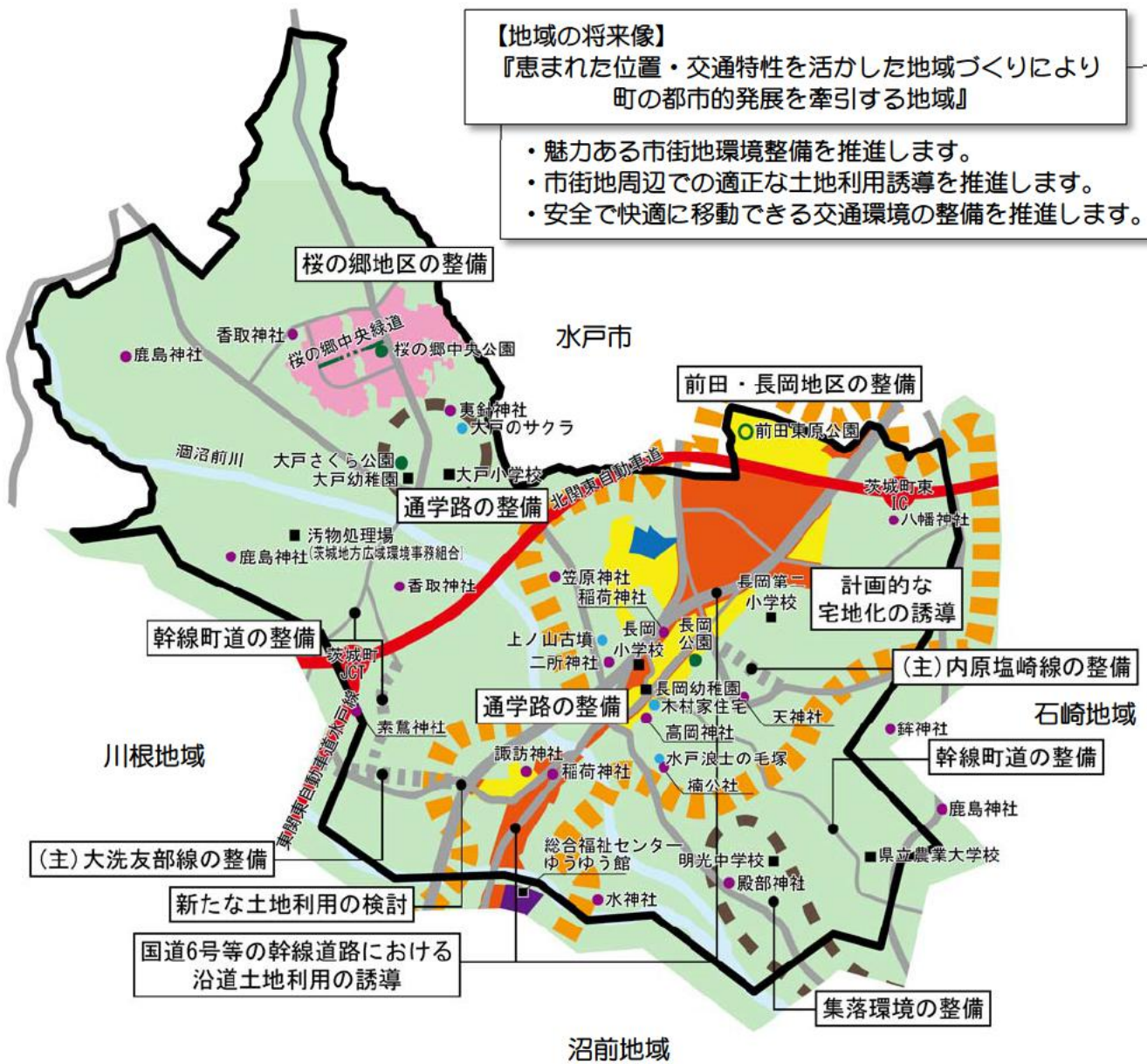
### ● 市街地周辺での適正な土地利用誘導を推進します。

- ・市街地外においても、幹線道路の整備が進み、宅地化が進行している地区などについては、基盤整備などの周辺の環境への影響に考慮しつつ、地区計画\*の活用や区域指定\*の見直しにより、一定の宅地化を許容・誘導します。
- ・現在整備が進められている主要地方道大洗友部線（都市計画道路小鶴南川又線）の延伸により、国道6号と接続することで新たな交通結節点となる小鶴地区では、道路整備を契機とした地区計画\*の活用などによる新たな土地利用を検討します。

### ● 安全で快適に移動できる交通環境の整備を推進します。

- ・市街地間を結ぶ主要地方道大洗友部線（都市計画道路小鶴南川又線）や内原塩崎線（都市計画道路長岡中山線）の整備を促進するとともに、幹線道路へのアクセス機能を有する町道整備を推進します。
- ・長岡、長岡第二、大戸小学校などの小中学校の周辺については、児童や生徒の交通安全性を高めるため、通学路の点検・調査に基づいた歩道整備や交通安全施設の設置などによる交通環境整備を推進します。

## ■長岡地域 地域づくり方針図



**【地域の将来像】**  
『恵まれた位置・交通特性を活かした地域づくりにより町の都市的発展を牽引する地域』

- ・魅力ある市街地環境整備を推進します。
- ・市街地周辺での適正な土地利用誘導を推進します。
- ・安全で快適に移動できる交通環境の整備を推進します。

### 【土地利用方針】

市街地	住宅地	複合市街地	工業地
市街地	商業・業務地	行政サービス地区	
市街地	準市街地地区	沿道土地利用検討地区	自然・交流レクリエーション拠点
市街地外	集落振興地区	農業関連産業拠点地区	

### 【公共施設やその他の地域資源】 ※平成27年度末時点

高速自動車国道 (既設)	公園・緑地 (既設)	神社・仏閣
高速自動車国道 (計画)	公園・緑地 (計画)	
幹線道路その他 (既設)	公共公益施設 (町役場・小中学校等)	
幹線道路その他 (計画)	指定文化財 (史跡等)	

### 5-3 川根地域の将来像

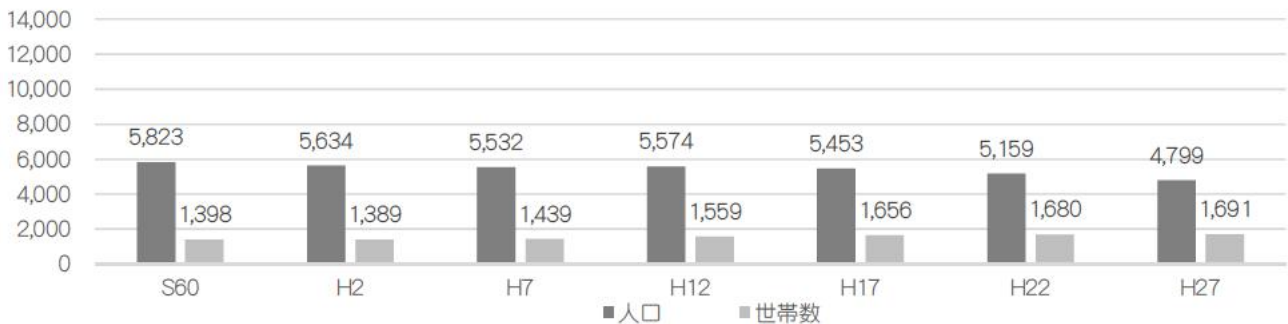
#### (1) 地域の状況や課題

- 本地域の人口は、減少傾向で推移しており、近年では減少幅が拡大しています。
- 土地利用の状況では、自然的土地利用\*が地域の約72%、都市的土地利用\*が約28%を占めています。
- 北関東自動車道が地域を横断し、茨城町西インターチェンジが設置されているほか、主要地方道大洗友部線や、茨城岩間線、玉里水戸線などが通過し、隣接する水戸市や笠間市、小美玉市と結ばれる地域となっています。
- 一団の工業系市街地として、茨城中央工業団地や茨城工業団地が整備され、本町の産業経済の発展を担う産業拠点となっており、引き続き産業機能の集積を図ることが期待されます。
- 奥谷地区では、幹線道路の沿道部において複数の空き店舗や未利用地が存在することから、商業環境を始めとする地域活性化を図ることが重要です。
- 地域の中央部に酒沼川が流れ、周辺には一団の農地が分布するなど、良好な自然的環境を形成していることから、これらの土地利用や景観の保全を図ることが求められています。
- 主要地方道茨城岩間線などの幹線道路沿いを中心として、複数の既存集落が形成されており、住民の定住促進に役立つ生活環境の向上などの取り組みが求められています。
- 学校の統廃合などにより、現在跡地となっている旧川根小学校や旧川根幼稚園は、有効的な跡地の利活用が求められています。



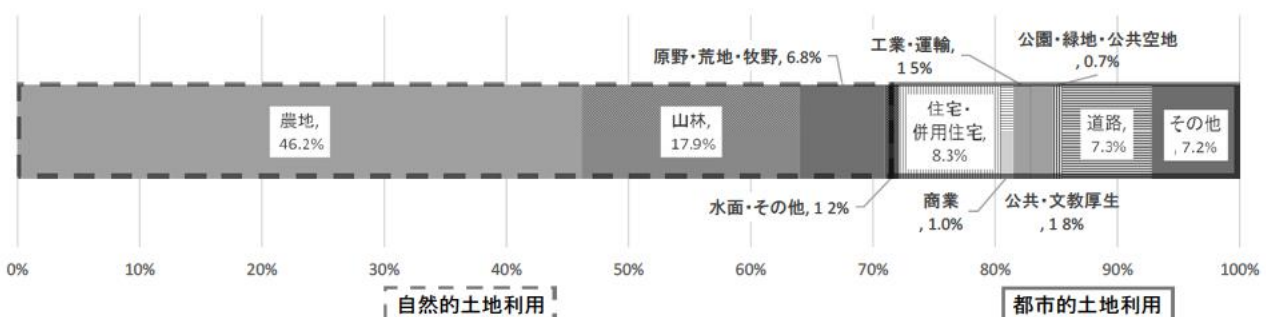
#### ■人口・世帯数の推移

資料：茨城県の人口(町丁字別)



#### ■土地利用の状況

資料：都市計画基礎調査\* (H27)



## (2) 地域の将来像

産業の拠点化や集落環境の向上などの地域づくりにより  
町の活力を生み出す地域

茨城中央工業団地や茨城工業団地では、企業立地の積極的な誘導により、本町における雇用の確保や移住者の増加など、町の活力の向上を目指します。

奥谷地区では、主要地方道茨城鹿島線などの幹線道路沿いにおいて、住民の日常的な生活を支える商業環境の向上を目指します。

幹線道路沿いの拠点的な既存集落においては、住民の定住促進により、地域コミュニティの維持・保全を目指します。

## (3) 地域づくりの方針

### ● 産業集積に向けた企業誘致を推進します。

- ・茨城中央工業団地や茨城工業団地では、企業の立地促進のための都市基盤施設\*の整備や、適切な維持管理を行い、必要に応じて現在の都市計画の見直しを検討するほか、町のPR活動や魅力ある立地支援策などの検討を進めるなど、積極的な企業誘致活動を推進します。
- ・企業誘致にも役立つ交通ネットワーク\*の充実を図るため、茨城中央工業団地と広域幹線道路である国道6号を結ぶ主要地方道大洗友部線（都市計画道路小鶴南川又線）の延伸整備を促進します。

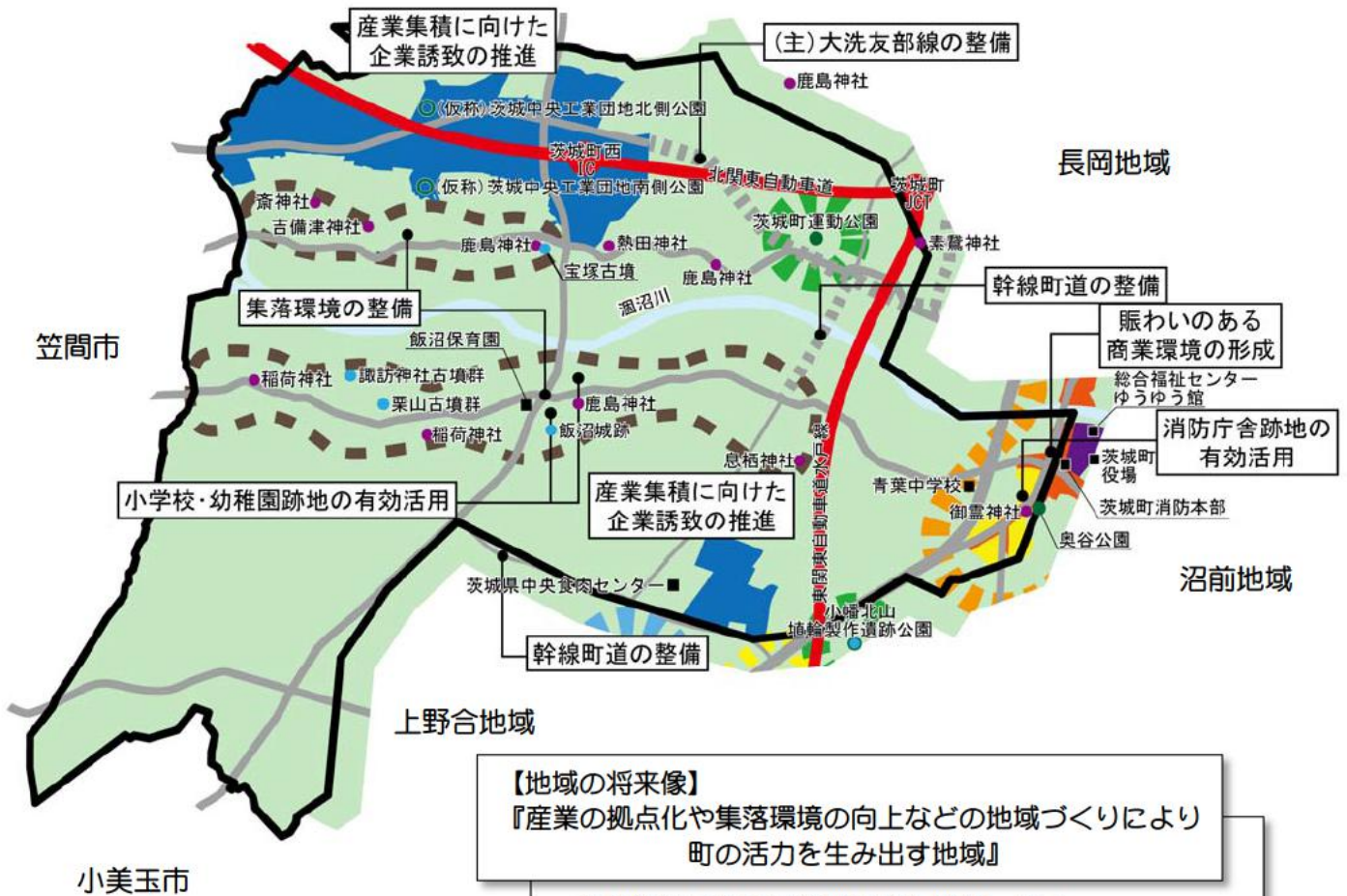
### ● 賑わいのある商業環境の形成を推進します。

- ・奥谷地区の主要地方道茨城鹿島線や茨城岩間線などの沿道部については、商業・業務機能の誘導による魅力ある沿道空間の形成を図るため、用途地域\*の変更による土地利用の誘導や、歩行者のための安全で快適な歩行空間の確保に努め、小堤地区や小鶴地区と一体的な生活拠点の形成を推進します。
- ・奥谷地区に位置する消防庁舎跡地などの市街地内の空き地や空き店舗については、それらの解消に向けた対策を推進します。

### ● 定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

- ・酒沼川や河川沿いに広がる優良な農地や緑地を保全するとともに、拠点的な既存集落においては、公共下水道事業\*などの集落環境整備を推進します。
- ・学校の統廃合などにより、現在跡地となっている旧川根小学校や旧川根幼稚園については、雇用創出などの地域振興や地域活性化に資する施設利用など、有効的な跡地活用を推進します。

## ■川根地域 地域づくり方針図



【地域の将来像】  
『産業の拠点化や集落環境の向上などの地域づくりにより  
町の活力を生み出す地域』

- ・産業集積に向けた企業誘致を推進します。
- ・賑わいのある商業環境の形成を推進します。
- ・定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

### 【土地利用方針】

市街地	住宅地	複合市街地	工業地
市街地	商業・業務地	行政サービス地区	
市街地	準市街地地区	沿道土地利用検討地区	自然・交流レクリエーション拠点
市街地外	集落振興地区	農業関連産業拠点地区	

### 【公共施設やその他の地域資源】 ※平成27年度末時点

高速自動車国道 (既設)	公園・緑地 (既設)	神社・仏閣
" (計画)	" (計画)	
幹線道路その他 (既設)	公共公益施設 (町役場・小中学校等)	
" (計画)	指定文化財 (史跡等)	



## 5-4 上野合地域の将来像

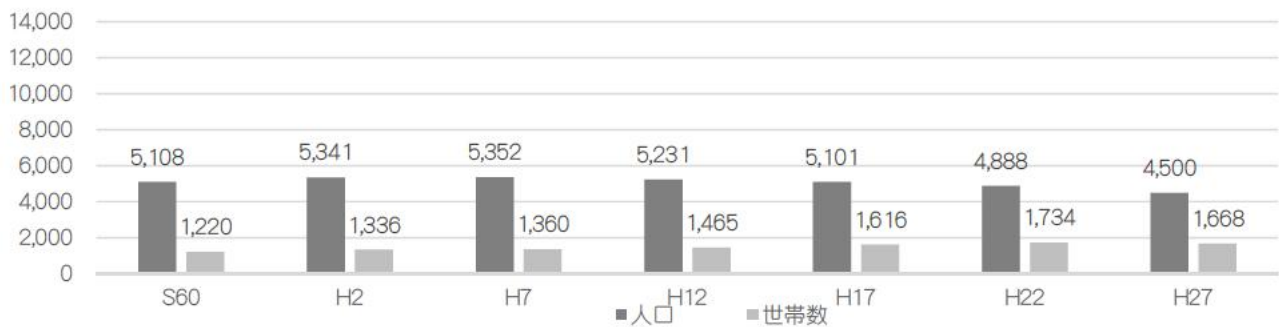
### (1) 地域の状況や課題

- 本地域の人口は、平成7年まで増加傾向で推移していますが、以降減少傾向に転じており、近年では減少幅が拡大しています。
- 土地利用の状況では、自然的土地利用\*が地域の約80%、都市的土地利用\*が約20%を占めています。
- 東関東自動車道水戸線が地域を縦断し、銚田市との境界付近に茨城空港北インターチェンジが設置されているほか、国道6号や主要地方道茨城鹿島線、茨城岩間線が通過し、隣接する小美玉市や銚田市と結ばれる地域となっています。
- 寛政川周辺や台地上には農地や林地などの自然的土地利用\*が多く分布していることから、これらの良好な自然的環境を保全するとともに、幹線道路沿いを中心として形成された既存集落の生活環境の向上を図ることが重要です。
- 東関東自動車道水戸線の茨城空港北インターチェンジ以南の延伸整備による効果をまちづくりへ積極的に活用することが期待されています。
- 小幡北山埴輪製作遺跡や小幡城跡などの貴重な文化・歴史的資源を豊富に有していることから、これらの資源の保全や活用により、地域の特性を活かしたまちづくりが期待されています。
- 一団の未利用地となっている茨城県畜産センター養鶏研究室跡地や、学校の統廃合などにより、現在跡地となっている旧上野合小学校や旧上野合幼稚園は、有効的な跡地の利活用が求められています。



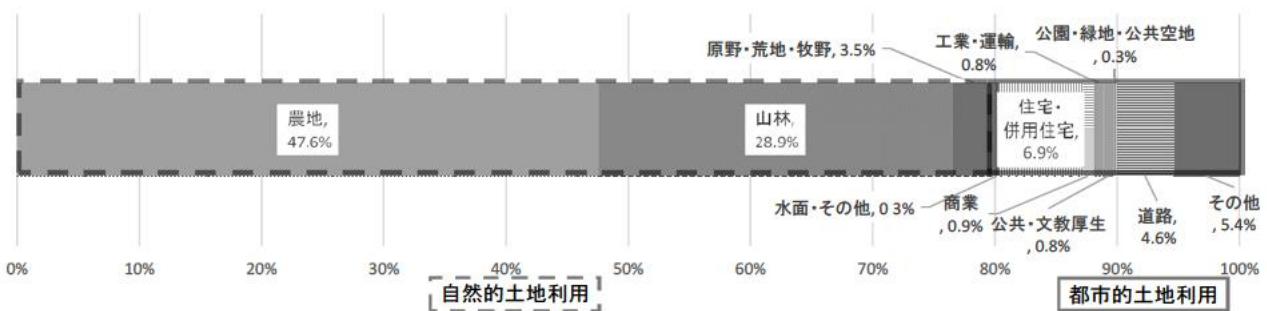
### ■人口・世帯数の推移

資料：茨城県の人口(町丁字別)



### ■土地利用の状況

資料：都市計画基礎調査\* (H27)



## (2) 地域の将来像

### 文化・歴史的資源を活かした地域づくりにより 町の歴史の継承・発信や新しい賑わいを創出する地域

上野合地域は、小幡北山埴輪製作遺跡公園や小幡城跡などの特徴的な文化・歴史的資源の保全・活用とともに、公共施設跡地の有効的な利活用を図ることで、本町の歴史を継承・発信し、新しい賑わいを創出する地域づくりを目指します。

また、東関東自動車道水戸線の延伸整備による交通需要の増加や交通利便性の向上が期待されることから、町の活性化に向けて、茨城空港北インターチェンジ周辺地域の活用を検討します。

## (3) 地域づくりの方針

### ● 文化・歴史的資源の活用と新たな交流拠点の形成を推進します。

- ・小幡北山埴輪製作遺跡公園や小幡城跡などについては、本町の文化や歴史を後世に伝える貴重な拠点であることから、積極的に保全を図るとともに、子ども達などへの教育学習の場としての活用や、観光・交流の場としての活用など、魅力の向上を図ります。
- ・町民や来訪者の交流拠点として、茨城県畜産センター養鶏研究室跡地の利活用を図るとともに、必要に応じて防災機能の導入や、周辺の土地利用動向などの変化を踏まえた地区計画\*の活用について検討します。

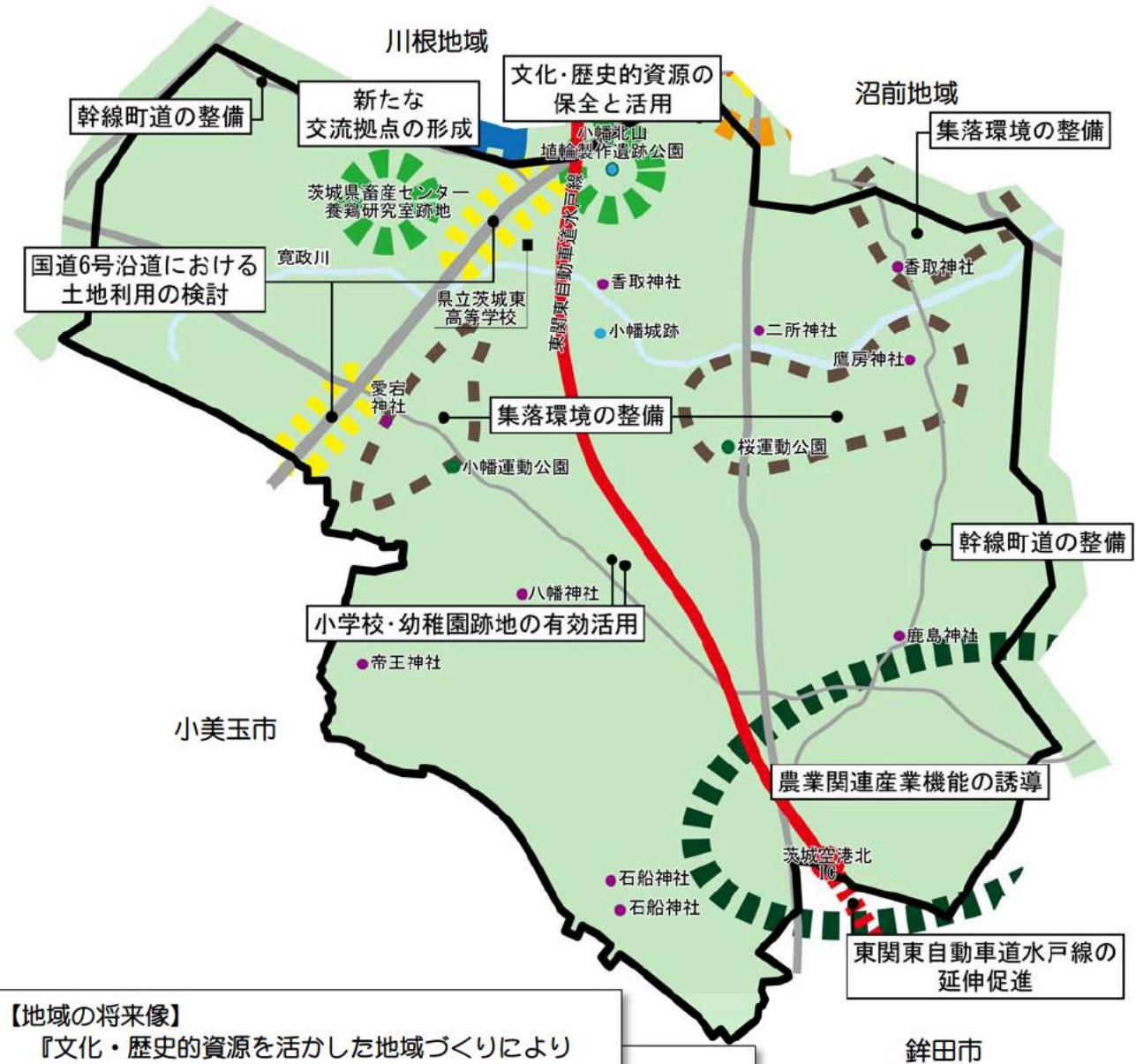
### ● 交通利便性を活かした土地利用の誘導を推進します。

- ・東関東自動車道水戸線については、茨城空港北インターチェンジ以南の整備を積極的に働きかけ、周辺地域における農業生産機能を活かし、農産物の生産・加工・販売による6次産業化\*などの農業関連産業の誘導について検討します。
- ・国道6号の一部の沿道部については、周辺土地利用との調和を図りつつ、地区計画\*の活用などにより、交通利便性を活かした都市的土地利用\*への転換について検討します。

### ● 定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

- ・主要な既存集落やその周辺においては、居住環境に対する満足度を高め、定住を促進させるとともに、移住希望者の受け皿づくりや、住民の生活に必要な生活利便施設などの立地を誘導するため、区域指定\*の活用とともに、生活道路や排水施設の整備を推進します。
- ・学校の統廃合などにより、現在跡地となっている旧上野合小学校や旧上野合幼稚園は、雇用創出などの地域振興や地域活性化に資する施設利用など、有効的な跡地活用を推進します。

## ■上野合地域 地域づくり方針図



**【地域の将来像】**  
『文化・歴史的資源を活かした地域づくりにより町の歴史の継承・発信や新しい賑わいを創出する地域』

- ・文化・歴史的資源の活用と新たな交流拠点の形成を推進します。
- ・交通利便性を活かした土地利用の誘導を推進します。
- ・定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

### 【土地利用方針】

市街地	住宅地	複合市街地	工業地
市街地	商業・業務地	行政サービス地区	
市街地	準市街地地区	沿道土地利用検討地区	自然・交流レクリエーション拠点
市街地外	集落振興地区	農業関連産業拠点地区	

### 【公共施設やその他の地域資源】 ※平成27年度末時点

高速自動車国道 (既設)	公園・緑地 (既設)	神社・仏閣
" (計画)	" (計画)	
幹線道路その他 (既設)	公共公益施設 (町役場・小中学校等)	
" (計画)	指定文化財 (史跡等)	

## 5-5 沼前地域の将来像

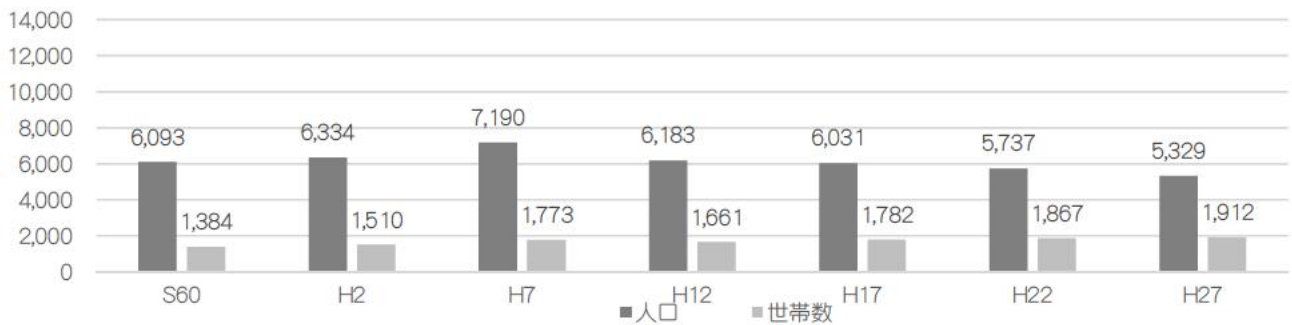
### (1) 地域の状況や課題

- 本地域の人口は、平成7年まで増加傾向で推移していますが、以降減少傾向に転じ、近年では減少幅が拡大しています。
- 土地利用の状況では、自然的土地利用\*が地域の約83%、都市的土地利用\*が約17%を占めており、他の地域と比較して、自然的土地利用\*の割合が高い地域となっています。
- 主要地方道大洗友部線や水戸神栖線が地域を通過し、隣接する鉾田市と結ばれる地域となっています。
- 小堤地区では、町役場やゆうゆう館、町立図書館などの様々な公共公益施設が集積し、多くの町民が利用する地区であることから、引き続き、町民の利便性を確保することが重要です。
- 酒沼や周辺の自然環境を保全するとともに、酒沼を活用した魅力あるレクリエーション空間の形成が求められています。
- 主要地方道水戸神栖線などの幹線道路沿いを中心として、複数の既存集落が形成されており、住民の定住促進に向けた取り組みが求められています。
- 酒沼南岸や鉾田市との境界付近には、広大な優良農地が分布し、一団の農業生産地を形成しています。
- 学校の統廃合により、現在跡地となっている旧沼前小学校は、有効的な跡地の利活用が求められています。



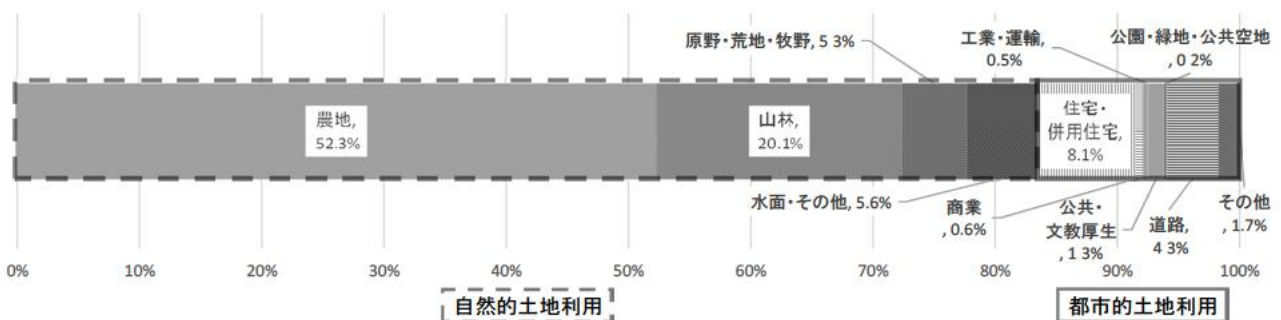
### ■人口・世帯数の推移

資料：茨城県の人口(町丁字別)



### ■土地利用の状況

資料：都市計画基礎調査\* (H27)



## (2) 地域の将来像

行政機能の集積や農と自然を活かした地域づくりにより  
町の快適な暮らしを支える地域

沼前地域は、町役場やゆうゆう館、町立図書館などの公共公益施設が集積しており、多くの町民が訪れることから、行政サービスによる町民の利便性向上を目指します。

また、沼沼周辺では水辺や農地の保全を図り、親水\*性の高い空間の形成に努めるなどの地域づくりを目指します。

さらに、沼沼周辺や隣接する銚田市との連続した一団の農地については、本町の基幹産業である農業の振興のため、積極的に保全します。

## (3) 地域づくりの方針

### ● 町民誰もが利用しやすい行政機能の拠点化を推進します。

- ・公共公益施設が集積する小堤地区では、多くの町民が訪れ利用する地区であることから、更なる利便性の向上を図るため、バリアフリー\*化の推進や、公共公益機能の維持・充実を高めるなど、地区の拠点性向上を推進します。
- ・小堤地区では、多くの町民が集まる本町の顔としてふさわしい環境整備として、サインや植栽など、街並みの景観づくりを推進します。
- ・奥谷地区や小鶴地区における魅力ある沿道空間の形成を図ることで、公共公益機能と商業・業務機能の集積による一体的な生活拠点の形成を推進します。

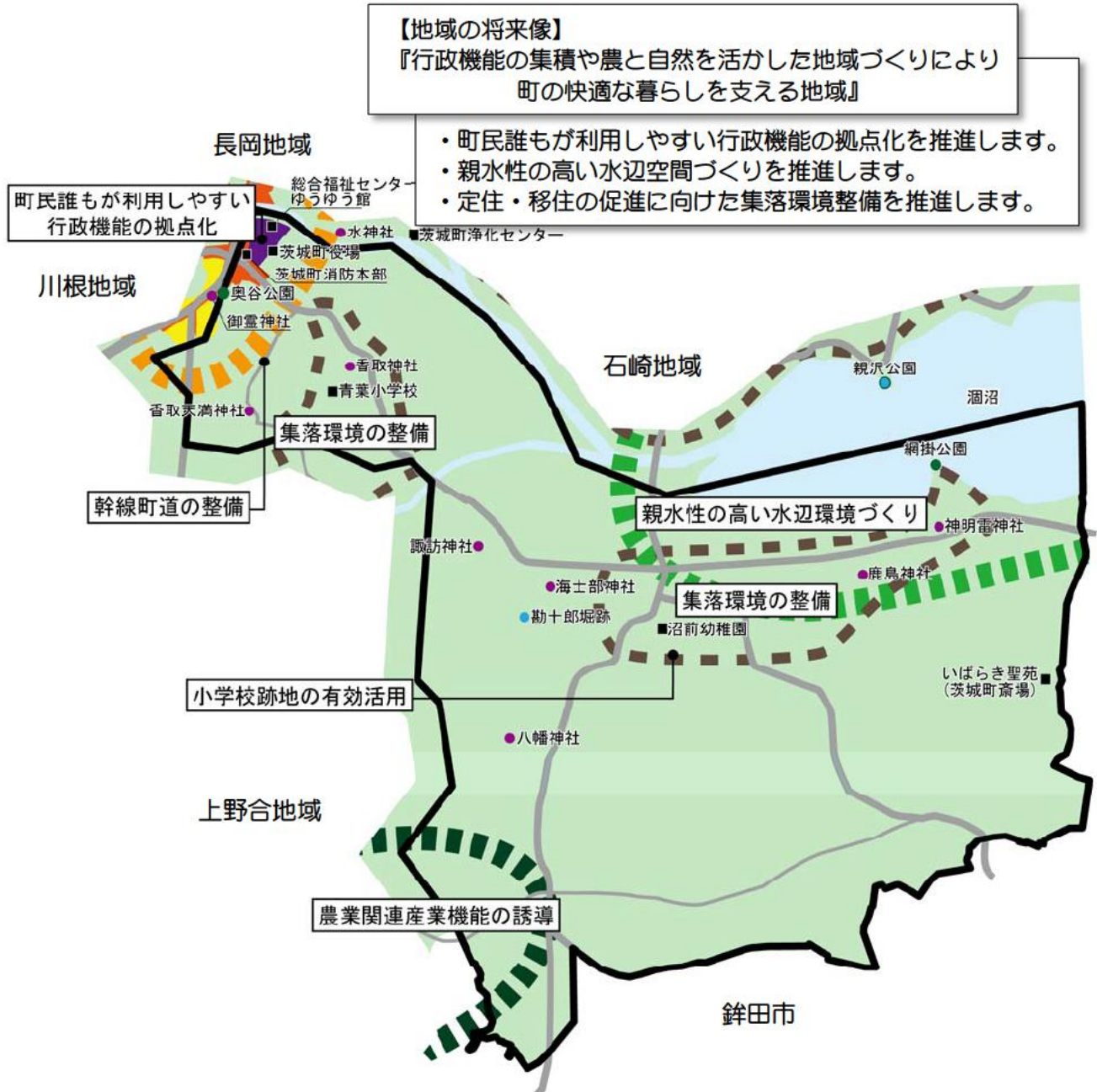
### ● 親水性の高い水辺空間づくりを推進します。

- ・沼沼南岸にある網掛公園については、引き続き適切な維持管理を行い、沼沼や周辺の公園・緑地などとの周遊ネットワーク\*の中継点として活用します。
- ・沼沼周辺の水田や緑地については、潤いのある景観形成や自然環境保全などの多面的機能を考慮し、引き続き保全を図ります。

### ● 定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

- ・主要な既存集落やその周辺においては、居住環境に対する満足度を高め、定住を促進させるとともに、移住希望者の受け皿づくりや、住民の生活に必要な生活利便施設などの立地を誘導するため、区域指定\*の活用とともに、生活道路や排水施設の整備を推進します。
- ・学校の統廃合により、現在跡地となっている旧沼前小学校は、雇用創出などの地域振興や地域活性化に資する施設利用など、有効的な跡地活用を推進します。

## ■沼前地域 地域づくり方針図



### 【土地利用方針】

市街地	住宅地	複合市街地	工業地
市街地	商業・業務地	行政サービス地区	
市街地	準市街地地区	沿道土地利用検討地区	自然・交流レクリエーション拠点
市街地外	集落振興地区	農業関連産業視点地区	

### 【公共施設やその他の地域資源】 ※平成27年度末時点

高速自動車国道 (既設)	公園・緑地 (既設)	神社・仏閣
高速自動車国道 (計画)	公園・緑地 (計画)	
幹線道路その他 (既設)	公共公益施設 (町役場・小中学校等)	
幹線道路その他 (計画)	指定文化財 (史跡等)	

## 5-6 石崎地域の将来像

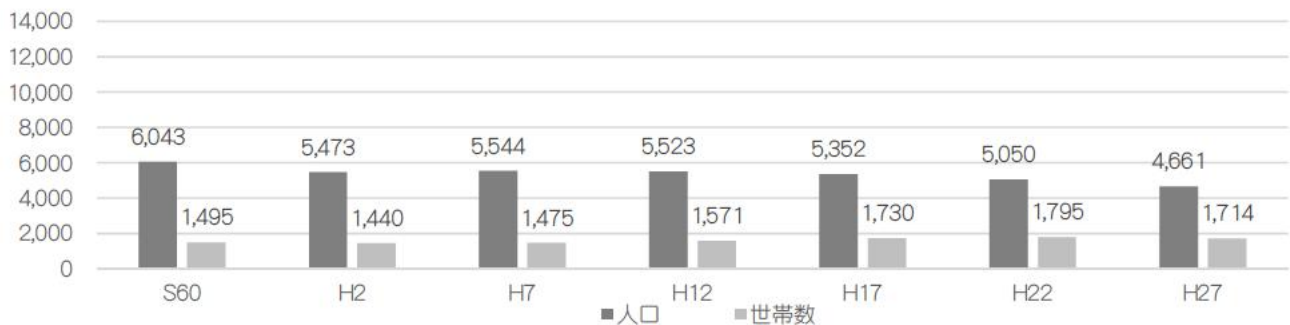
### (1) 地域の状況や課題

- 本地域の人口は、平成7年以降減少傾向で推移しており、近年では減少幅が拡大しています。
- 土地利用の状況では、自然的土地利用\*が地域の約83%、都市的土地利用\*が地域の約17%を占めており、酒沼を有することから、他の地域と比較して、自然的土地利用\*の割合が高い地域となっています。
- 主要地方道内原塩崎線や水戸神栖線が地域を通過し、水戸市や大洗町と隣接する地域となっています。
- 本町のシンボルでもある酒沼があり、酒沼周辺の良好な自然環境を活かしたレクリエーション施設として、酒沼自然公園や、親沢公園などが整備されています。
- 幹線道路沿いを中心として、複数の既存集落が形成されており、住民の定住促進に役立つ生活環境の向上などの取り組みが求められています。
- 平成27年度末に廃校となる石崎小学校や広浦小学校は、有効的な跡地の利活用が求められています。



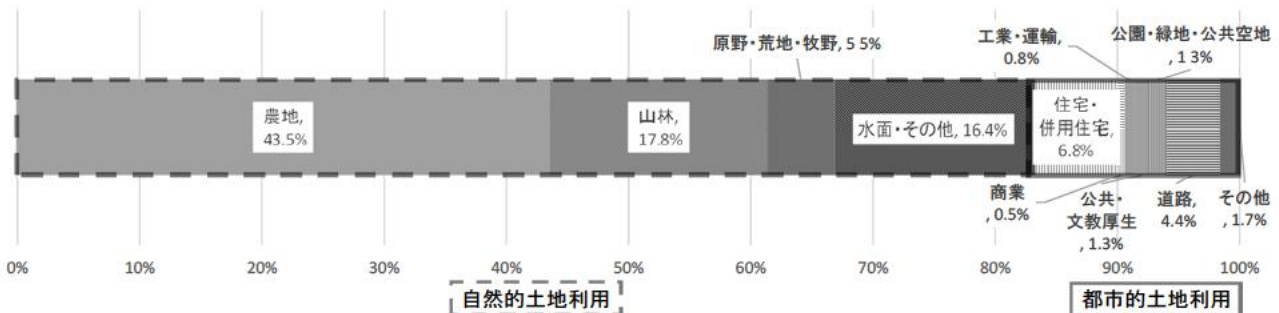
#### ■人口・世帯数の推移

資料：茨城県の人口(町丁字別)



#### ■土地利用の状況

資料：都市計画基礎調査\* (H27)



## (2) 地域の将来像

涸沼周辺の自然環境や景観を活かした地域づくりにより  
町の誇りと新しい交流を育む地域

石崎地域は、涸沼を中心とした世界を代表する貴重な自然環境を保全するとともに、涸沼自然公園を始めとする周辺の公園や親水\*系のレジャー・余暇施設などを活かし、自然と余暇が調和する地域づくりを目指します。

また、自然環境と関わりの強い農地や既存集落などで構成される田園風景を維持します。

## (3) 地域づくりの方針

### ● 涸沼を中心とした自然環境の保全を推進します。

- ・ラムサール条約湿地\*として登録された涸沼やその周辺については、世界を代表する貴重で豊かな生物多様性を有していることから、これらの自然環境や景観を将来にわたって永続的に保全します。
- ・涸沼周辺における水辺と緑地の維持管理については、住民・企業・行政などの多様な立場の参画による協働\*の取り組みを検討します。
- ・涸沼の水質改善のため、生活排水処理の環境整備を進めるとともに、自然の水循環を確保するよう周辺の農地や林地の保全を図ります。

### ● 住民ニーズを踏まえた涸沼周辺の利活用を推進します。

- ・「活用すべき地域資源」として特に住民意向の高かった涸沼周辺については、自然学習・体験、レクリエーション、憩い及びスポーツなどの多様な交流機能による活用を念頭におきつつ、住民意向を踏まえた利活用方策について検討します。
- ・ラムサール条約湿地\*として、涸沼周辺の貴重で良好な自然環境を改めて町外にPRすることにより、本町への感心を高めるとともに、涸沼周辺における道路整備の推進によるアクセス性の向上や、隣接する自治体と連携した広域観光の推進などにより、人の賑わいや交流を促進します。

### ● 定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。

- ・主要な既存集落やその周辺においては、居住環境に対する満足度を高め、定住を促進させるとともに、移住希望者の受け皿づくりや、住民の生活に必要な生活利便施設などの立地を誘導するため、区域指定\*の活用とともに、生活道路や排水施設の整備を推進します。
- ・涸沼川周辺などの浸水被害が想定される区域については、防災マップの活用などにより無秩序な宅地化を抑制するなど、被害の軽減を図ります。
- ・平成 27 年度末に廃校となる石崎小学校や広浦小学校は、雇用創出などの地域振興や地域活性化に資する施設利用など、有効的な跡地活用を推進します。



## ■石崎地域 地域づくり方針図

### 【地域の将来像】

『涸沼周辺の自然環境や景観を活かした地域づくりにより  
町の誇りと新しい交流を育む地域』

- ・涸沼を中心とした自然環境の保全を推進します。
- ・住民ニーズを踏まえた涸沼周辺の利活用を推進します。
- ・定住・移住の促進に向けた集落環境整備を推進します。



### 【土地利用方針】

市街地	住宅地	複合市街地	工業地
市街地	商業・業務地	行政サービス地区	
市街地外	準市街地地区	沿道土地利用検討地区	自然・交流レクリエーション拠点
市街地外	集落振興地区	農業関連産業拠点地区	

### 【公共施設やその他の地域資源】 ※平成27年度末時点

高速自動車国道 (既設)	公園・緑地 (既設)	神社・仏閣
" (計画)	" (計画)	
幹線道路その他 (既設)	公共公益施設 (町役場、小中学校等)	
" (計画)	指定文化財 (史跡等)	